

令和4年度実施 協働事業

プレゼンテーション

目次

●行政提案型協働事業(継続)

- ①着地型観光プログラムの開発とイベントの周知及び実施…………… P1

●市民提案型協働事業(継続)

- ②平塚市食品ロス削減事業並びに相対的貧困解消事業…………… P10

※提案団体の「NPO 法人フードバンクひらつか」は「NPO 法人フードバンク湘南」に名称を変更
(<https://foodbank-shonan.com/>)

- ③社会環境の変化に対応した地域活動の仕組みづくり支援事業…… P19

●市民提案型協働事業(新規)

- ④農業体験を通して不登校やひきこもりの若者と人材不足に悩む農家
をつなぐ就農支援事業 ～平塚市「スマートライスセンター」の通年

営業モデルの創出に向けて…………… P27

令和3年10月

平塚市

令和4年度実施協働事業 プレゼンテーションスケジュール

●開催日：令和3年10月2日(土)

●会場：平塚市立崇善公民館

時 間	内 容	
14:00 ホール	プレゼンテーション開会	
14:05 ホール	プレゼンテーション ・提案団体プレゼン5分、質疑応答10分 ※行政提案は、提案団体のプレゼン前に担当課説明3分 ・入替制で実施	
14:05～	【行政提案】 着地型観光プログラムの開発とイベントの周知及び実施	3年目 提案
14:30～	【市民提案】 平塚市食品ロス削減事業並びに相対的貧困解消事業	3年目 提案
14:50～	【市民提案】 社会環境の変化に対応した地域活動の仕組みづくり 支援事業	2年目 提案
15:10～	【市民提案】 農業体験を通して不登校やひきこもりの若者と人材不足 に悩む農家をつなぐ就農支援事業 ～平塚市「スマートラ イスセンター」の通年営業モデルの創出に向けて～	新規 提案
15:30	プレゼンテーション閉会	

(宛先)

平塚市長

団 体 名 ひらつか着地型観光推進委員会

代 表 者 田中 純矢

事業担当課 商業観光課

提 案 型 行政提案型
市民提案型 (自由部門 テーマ設定部門)

新規・継続 新規 (提案 年分) 継続 (令和2年度～)

協働事業について、以下のとおり事業提案します。

1 提案内容 (事業担当課との意見交換をもとに、具体的に詳しく記入してください。)

①事業名	着地型観光プログラムの開発とイベントの周知及び実施
<p>②事業の目的・必要性</p> <p>なぜこの事業が必要か、どのような市民サービスの向上が図られるのかなど。</p>	<p>【事業の目的】 コロナ禍での社会状況を踏まえ、地域の資源を活用して、地域主体、地域発信で行う新しい形の観光である着地型観光(学び体験)のプログラム開発と実施及び情報発信を行うことにより、平塚の新しいイメージやブランドを創り出す。</p> <p>【事業の必要性】 平塚市は、平成30年の神奈川県入込観光客数調査の結果では、入込観光客数は750万人となっており近隣市町と比べて観光客数は多いですが、平塚市総合公園、湘南ひらつか七夕まつり、スポーツ観戦に全体の約6割が集中しており、首都圏であり、東京から近距離であることや自然豊かな環境、工業、農業などの産業や技術、教育施設や公園などの多様な地域資源を活かしきれていません。</p> <p>経済産業省発行の「平成27年度 産業観光を活用した地域活性化事例調査 事例集」にも掲載された久留米市においては、平成20年より市主導で着地型観光に取り組んでおり、現在は、年間80個のプログラムを開催しています。</p> <p>着地型観光を進めたことで地元を観光地として位置付けていなかった関係者の意識が変わったことや観光地としてのイメージアップが図られています。</p> <p>また、新型コロナウイルス感染防止に伴う緊急事態宣言及びその後の「新しい生活様式」への対応により、テレワークが推進され、地域で過ごす時間が増加しています。学校では、行事等が縮小され、学びの機会が減少し、子供の遊び場を含めた身近な公園や自然の価値が見直されており、地域で体験できるプログラムの必要性が高まっています。</p> <p>これらの実績や機会を捉え、平塚市においても、より身近で新しい形の観光として着地型観光に取り組むことで、平塚の多様な地域資源がつながり、そして発展し、今までは特定の目的で平塚を訪れることが多く、点(ワンストップ)だった観光を線や面(ステイなど)へと展開することにより、新しい平塚のイメージやブランドを創り出すことが必要です。</p> <p>更には、着地型観光の推進により、交流人口が増加することで、定住人口の増加や持続可能なまちづくりに繋がる可能性があります。</p>

<p>③協働の必要性・メリット</p>	<p>必要性</p> <ul style="list-style-type: none"> ・着地型観光は、これまで観光資源とは思われていない地域資源を工夫しながら市内外に観光として紹介することで新しい魅力を発信できます。 ・当委員会に所属するメンバーのこれまでの経験や知識をもとに、行政では公平性等の観点から難しい魅力的なプログラムのキュレーションをすることができます。 ・市の持つ工業、商業、農業などに関する情報・蓄積は地域資源の発掘に有意義であると考えます。 ・一般的な観光の手法ではない点で観光プログラムを提供する側の理解が進まない可能性や当委員会への信頼に懸念がありますが、行政と協働で進めることで、着実に事業を進めることができると考えています。 ・コロナ禍での社会状況を踏まえ、行政と団体が協働することで、実施者は、プログラムを実施しやすくなり、参加者も安心してプログラムに参加ができると考えます。
<p>なぜ、市と協働で実施したいのか、協働することの必要性を記入してください。 また、市民・団体・市のメリットをそれぞれ具体的に記入してください。</p>	<p>メリット</p> <p>(市民のメリット：市民が受けられるサービスや解決される課題など)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・行政の市内全体への広報と団体でのプログラムに合わせたターゲットへの広報で、身近にある魅力と感じていないプログラムや、PR が個別で不十分なため気付けなかった魅力を再発見でき、地元への愛着が生まれます。 ・また、コロナ禍においても、地域内の多様な資源を活用したローカル体験により、「学び」を得ることができます。 <p>(団体のメリット：行政が持つ情報等の活用や信頼性の確保など)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・行政から着地型観光に関わる情報を得ることができます。 ・観光プログラムの作成にあたり、企業に提案などを行う際に、行政との協働であることで信頼性を持って進めることができます。 ・公共施設や広報など行政の持つメディアやノウハウを利用した情報発信ができます。 ・行政と協働で実施することでコロナ禍においても、実施者、参加者からの信頼が得られます。 <p>(市のメリット：団体が持つ専門性やノウハウの活用など)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・新しいひらつかをPR できます。 ・行政では公平性等の観点から難しい魅力的なプログラムを提供できます。 ・ターゲットにあったPR をすることができます。 ・平塚の企業や文化、歴史、自然などの魅力を、観光を通じて効果的に発信することができ、交流人口増加につながります。 ・企業間のネットワークが形成され、平塚の新しい成長エンジンとなります。

<p>④事業のアピールポイント</p> <p>この事業の先駆性、先進性、創意工夫、事業の売りや熱い想いなどアピールできることを記入してください。</p>	<p>近年は「見て・学ぶ」観光から「体験して・学んで・楽しむ」体験型の観光が主流になっています。</p> <p>これまでの「見て・学ぶ」観光は京都や鎌倉など「歴史」などの側面が強い印象ですが、平塚に根付いている自動車製造や化粧品香料製造などの工業、広大な水田と豊富な水を使った「はるみ」などの稲作やトマトやキュウリ、イチゴ、バラの生産などの施設園芸による農業、約30ヘクタールの広大な敷地を持つ平塚総合公園や海岸のビーチパーク、相模川沿いの馬入ふれあい公園などでの各種スポーツ体験も魅力的な観光資源です。</p> <p>それらの点として存在する資源を線・面として活用し、これらを活かした「学び」をテーマとした着地型観光を推進することにより、平塚の新しい価値の創造をめざします。</p>				
<p>⑤事業概要・計画</p> <p>スケジュール・人員配置など時系列、箇条書きで具体的に記入してください。</p>	<p>本事業では、着地型観光プログラムの開発とイベントの周知及び実施を行います。</p> <p>着地型観光プログラムについては、年間10プログラムの観光プログラムを開発し、3箇年で30プログラムを開発する予定で、着地型観光の推進に取り組んできましたが、令和2年度は、新型コロナウイルスの影響により、上半期のプログラムの実施が困難となったため、下半期に、「自然体験」をテーマに屋外で体験できる、5プログラムを実施しました。</p> <p>現在は、その実績を踏まえ、改めて新規10プログラムの実施を目指し、着地型観光の推進に取り組んでいます。なお、令和3年度上半期は「ものづくり」をテーマにした5プログラムを実施しており、下半期は、「スポーツ」をテーマにした5プログラムを実施する予定です。</p> <p>そして、令和4年度は、そのノウハウを活かし、更に10プログラムの開発を行い、25プログラムを実施する予定です。</p> <p>令和4年度は、ひらつかの特徴である工業（工場）を活かした工場見学のプログラムや公共施設を活かしたバックヤードツアーなどを開発することを想定しています。</p> <p>プログラムの実施においては、行政の持つ媒体や地元メディアを活用した情報発信を行うとともに、レポートの聴取を行い、観光プログラムや推進体制の見直しをします。</p> <p>また、事業を進めるうえで構築されたプログラム実施者や協力者との連携により、更に多様で魅力的なプログラムの作成に繋がりたいと考えています。</p> <p>【事業スケジュール】</p> <table border="1" data-bbox="491 1787 1492 2103"> <thead> <tr> <th data-bbox="491 1787 625 1854">時期</th> <th data-bbox="625 1787 1492 1854">実施項目</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td data-bbox="491 1854 625 2103">4~5月</td> <td data-bbox="625 1854 1492 2103"> <ul style="list-style-type: none"> ・ホームページ・予約管理システムの更新（2名） ・観光資源の発掘・観光プログラム化へ向けた営業（5名） ・予約システムへの掲載案作成（各1名） ・実施に向けた広告の作成等PR（2名） ・観光プログラムの実施（3コンテンツ・各2名） </td> </tr> </tbody> </table>	時期	実施項目	4~5月	<ul style="list-style-type: none"> ・ホームページ・予約管理システムの更新（2名） ・観光資源の発掘・観光プログラム化へ向けた営業（5名） ・予約システムへの掲載案作成（各1名） ・実施に向けた広告の作成等PR（2名） ・観光プログラムの実施（3コンテンツ・各2名）
時期	実施項目				
4~5月	<ul style="list-style-type: none"> ・ホームページ・予約管理システムの更新（2名） ・観光資源の発掘・観光プログラム化へ向けた営業（5名） ・予約システムへの掲載案作成（各1名） ・実施に向けた広告の作成等PR（2名） ・観光プログラムの実施（3コンテンツ・各2名） 				

		<ul style="list-style-type: none"> ・実施を経たレポート作成と結果を踏まえた調整（各1名）
	6月	<ul style="list-style-type: none"> ・観光プログラムの実施（2コンテンツ・各2名） ・実施を経たレポート作成と結果を踏まえた調整（各1名） ・予約システムへの掲載案作成（各1名） ・本格実施に向けた広告の作成等 PR（2名）
	7～8月	<ul style="list-style-type: none"> ・観光プログラムの実施（8コンテンツ・各2名） ・実施を経たレポート作成と結果を踏まえた調整（各1名）
	9月	<ul style="list-style-type: none"> ・観光プログラムの実施（2コンテンツ・各2名） ・実施を経たレポート作成と結果を踏まえた調整（各1名） ・中間報告に向けた成果のとりまとめ（全体）
	10～11月	<ul style="list-style-type: none"> ・観光プログラムの実施（8コンテンツ・各2名） ・実施を経たレポート作成と結果を踏まえた調整（各1名）
	12～3月	<ul style="list-style-type: none"> ・観光プログラムの実施（2コンテンツ・2名） ・実施を経たレポート作成と結果を踏まえた調整（1名） ・運営結果を踏まえた事業推進体制の見直し（全体） ・次年度に向けた観光資源の再発掘（10名）
<p>◎役割分担</p> <p>団体、市の役割を具体的に記入してください。</p>		<p>（団体の役割）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・着地型観光に関わる資源の発掘（情報収集や見学など） ・資源を基にした観光プログラムづくり（事業者への提案や複数の事業者の調整など） ・情報発信（観光プログラムや団体の活動の PR など） ・予約管理 ・フォロー（より魅力的なプログラムとなるための調整など）
		<p>（市の役割）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・着地型観光に関わる地域資源の発掘の協力（情報提供など） ・観光プログラムづくりの協力（関わる団体との提案への同行など） ・市役所内の関係各課との調整 ・公共施設やメディアを使った観光プログラムや団体の活動 PR ・事務の補助

<p>⑦他団体との連携</p> <p>この事業に関し、他団体等と連携の実績や予定があれば記入。</p>	<p>平成30年度から行ってきたワークショップでは、地元企業や市の施設見学など、着地型観光に関わる資源の発掘を行い、その活動を踏まえ、平成31年3月31日に、着地型観光プログラムを実験的に行うため、市内で有機野菜を生産している株式会社いかすと協力し、野菜の生産のお話を聞きながら収穫体験や畑でランチをする「有機農園で遊ぼう！」をイベントとして実施しました。</p> <p>その経験がきっかけとなり集まったメンバーを中心に、本委員会が構成され、現在は、令和2年度に実施したプログラムの実施者（横田園芸、株式会社いかす、平塚海洋エネルギー研究会、湘南ひらつか・ゆるぎ地区活性化に向けた協議会、湘南いきもの楽校）との連携を構築してきました。</p> <p>令和3年度は、平塚市観光協会と協力したコンテンツも実施し、平塚信用金庫をはじめとする市内事業者との協力体制もできてきています。</p> <p>さらに、今後事業を進めるにあたり連携が必要になると想定される青年会議所に所属するメンバーも加入しており、平塚農商高校などの教育機関と連携しているところです。</p> <p>また、観光と密接な関係にある交通事業者とも本委員会の考え方の共有を図っています。</p> <p>今後は、地域スポーツクラブや大学との連携も視野に入れ、展開していきたいと考えています。</p>
<p>⑧成果目標 (目標値)</p> <p>できるだけ数値で具体的に記入してください。</p>	<p>本事業では、平塚の魅力を発信し、多くの人に平塚を知ってもらうこと、平塚に来てもらうことを目標とします。</p> <p>そのため、次の成果目標を設定します。</p> <p>【行政の提案に対応した目標値】</p> <ul style="list-style-type: none"> 観光プログラム参加者：500人以上の参加 <p>【団体独自の目標値】</p> <ul style="list-style-type: none"> 平塚に初めて来た人：100人以上の獲得 平塚の新たな魅力を発見した人：300人以上の獲得 協力企業10社獲得
<p>⑨関連法令等</p> <p>事業実施に関連した法令等があれば記入してください。</p>	<ul style="list-style-type: none"> 個人情報保護法 旅行業法 旅行業における新型コロナウイルス対応ガイドライン（日本旅行業協会、全国旅行業協会）
<p>⑩実施年度以降の展望</p> <p>今回提案の事業実施年度以降の展望を記入してください。</p>	<p><input type="checkbox"/> 実施年度以降も提案型協働事業で実施</p> <p>※市支出見込額（ 年目 円）</p> <p><input type="checkbox"/> 提案型以外の方法で協働を継続</p> <p>■団体が単独で実施 <input type="checkbox"/> 行政が単独で実施 <input type="checkbox"/> 終了する</p> <p>■その他（観光協会の事業として引き継げるか検討）</p> <hr/> <p>（実施後の具体的な事業展開や上記の補足事項）</p> <p>団体としては、協働事業実施後も継続を目指します。令和4年度の事業費のうち、市の支出は、約270万円です。このうち、100万円がシステム開発費であるため、令和4年度以降は必要なく、事業を同規模で継続するためには、約170万円を捻出する必要があります。</p>

⑧ 協働事業との関わり	<input type="checkbox"/> 新たな事業 <input checked="" type="checkbox"/> 今までの活動の拡大 <input type="checkbox"/> 今までの活動と同規模		
	役職等	氏名	協働事業での役割
⑨活動体制 活動に携わるメンバーを記入してください。 10名以上の場合は、主なメンバーを記入してください。	①会長	田中 純矢	事業の総括 観光プログラムの検討・開発 (平塚100人カイギ会長)
	②副会長	須藤 元	会運営庶務・事業管理・他団体との調整
	③会計	染谷 健太郎	会計・事業推進体制の検討 観光プログラムの検討・開発
	④監査	鈴木 奏到	監査・事業へのアドバイス (認定都市プランナー)
	⑤会員	高橋 徹誠	予約システム・チラシ作成
	⑥会員	岩渕 雄人	観光プログラムの検討・開発
	⑦会員	岩井 美由紀	観光プログラムの検討・開発 (平塚市観光協会職員)
	⑧会員	坂田 美保子	事業へのアドバイス (湘南NPOサポートセンター理事長)
	⑨会員	花田 慎介	観光プログラムの検討・開発
	⑩会員	田中 翼	プログラム作成アドバイス (株仕事旅行社代表取締役)

3 収支予算書（この協働事業だけの金額を記入してください）

2022年度

総事業費	4,198,764円	市の支出	2,698,764円
		団体の支出(他の収入等)	1,500,000円

①収入

金額単位：円

項目	予算額	内容
市の支出	C 2,698,764	
団体の支出	0	
事業収入	1,500,000	25プログラム×1回開催×3,000円/人×20人/回 =1,500,000円 (うち80%はプログラム実施者謝礼、20%は団体の収入とする)
収入合計	A 4,198,764	

②支出

項目	予算額	うち市の支出	積算単価のなど具体的な内容
人件費	1,603,164	1,428,164	<ul style="list-style-type: none"> ・プログラム企画・調整 =16h/1プログラム×10プログラム×1,500円 =240,000円 ・他団体調整(協力依頼・スポンサー獲得) =1h/1回×3回×10社×1,012円 =30,360円 ・プログラム内容調整会議 =1h/1回×7人×24(2週に1回)×1,012円 =170,016円 ・プログラム調整会議準備 =1h/1回×1人×24(2週に1回)×1,012円 =24,288円 ・プログラム運営 =5h/1プログラム×25回×2人×1,012円 =253,000円 ・プログラム準備(受付表、必要物品等準備) =5h/1プログラム×25回×1人×1,012円 =126,500円 ・予約管理(予約システムの設定、問い合わせ対応含む) =10h/1プログラム×25回×1人×1,012円 =253,000円 ・チラシ作成 =6h/1プログラム×25回×1人×1,012円 =151,800円

			<ul style="list-style-type: none"> ・ホームページ作成(アンケート集計、実施レポートの作成含む) =10h/1プログラム×25回×1人×1,012円 =253,000円 ・協働事業事務(事業に係る会計、税務、各種報告資料の作成、携帯電話等必要物品の検討・手配) =100h×1,012円 =101,200円
交通費	110,000	110,000	<ul style="list-style-type: none"> ・プログラム実施時交通費 =25プログラム×2名×1,000円 =50,000円 ・プログラム企画・調整時交通費 =10プログラム×1名×3回×1,000円 =30,000円 ・他団体調整時交通費 =10社×1名×3回×1,000円 =30,000円
有償ボランティア	50,000	50,000	<ul style="list-style-type: none"> ・プログラム開催時の受付・案内等補助 =25プログラム×2人×1,000円 =50,000円
プログラム実施者謝礼	1,200,000	0	<ul style="list-style-type: none"> ・48,000円/1プログラム×25プログラム =1,200,000円
システム開発費	1,000,000	1,000,000	<ul style="list-style-type: none"> ・システム構築のための委託費 (ページデザイン、予約管理、広告掲載、自動返信、レポート掲載などの機能構築)
システム保守費	45,600	45,600	<ul style="list-style-type: none"> ・月3,800円×12か月
通信費	95,000	0	<ul style="list-style-type: none"> ・携帯電話レンタル料(プログラム開催中のみの10か月間) =56,000円 ・通話料 =1,980/60分×10か月=19,800円 ・Zoom使用料=1,600円×12か月=19,200円
広告費	65,000	65,000	<ul style="list-style-type: none"> ・プログラム実施チラシ(A4裏表カラー) =10,000円/2,000部×5回=50,000円 ・会の紹介パンフレット(A4・4面カラー) =15,000円/500部
事務費	30,000	0	事務用品等
出合計	B 4,198,764	D 2,698,764	

注) 収入合計 A と支出合計 B、及び、市の支出 C と支出合計 D は同額となります。

注) 市の支出の他に、県やその他の助成金がある場合は、収入・支出に明記してください。

※事業の実施及び予算は3月議会での承認により決定されます。

※この事業提案書は、個人情報の一部を除き、ホームページ等で公表します。

(宛先)
平塚市長

団 体 名	NPO 法人フードバンクひらつか
代 表 者	大関めぐみ
事業担当課	環境部環境政策課
提 案 型	<input type="checkbox"/> 行政提案型 <input checked="" type="checkbox"/> 市民提案型 (<input checked="" type="checkbox"/> 自由部門 <input type="checkbox"/> テーマ設定部門)
新規・継続	<input type="checkbox"/> 新規 (提案 1 年分) <input checked="" type="checkbox"/> 継続 (令和 2 年度～)

協働事業について、以下のとおり事業提案します。

1 提案内容 (事業担当課との意見交換をもとに、具体的に詳しく記入してください。)

①事業名	平塚市食品ロス削減事業並びに相対的貧困解消事業	
②事業の目的・必要性 なぜこの事業が必要か、どのような市民サービスの向上が図られるのかなど。	<p>食品ロスとは、まだ食べられるのに廃棄される食品のことです。日本では、年間 2,531 万トン(※)の食品廃棄物等が出されています。このうち、まだ食べられるのに廃棄される食品、いわゆる「食品ロス」は 600 万トン(※)。これは、世界中で飢餓に苦しむ人々に向けた世界の食糧援助量(2019 年で年間約 420 万トン)の 1.4 倍に相当します。</p> <p>また、食品ロスを国民一人当たりで換算すると”お茶碗約 1 杯分(約 130g)の食べもの”が毎日捨てられていることになるのです。</p> <p>大切な資源の有効活用や環境負荷への配慮から、食品ロスを減らすことが必要です。</p> <p>※農林水産省及び環境省「平成 30 年度推計」</p> <p>食品ロスの削減とは、まだ食べることができる食品が廃棄されないようにするための社会的な取組をいいます。食品ロスを生んでいる 1 つに、賞味期限の認識をはじめとする市民及び事業者の過度な鮮度志向や製造工程のロスなどが挙げられます。</p> <p>本事業は、7 人に 1 人ともいわれている相対的貧困の解決に向け、フードバンクひらつかを利用する方々や新たに食品を必要とする方を対象に、そうした理由により廃棄されていた食品をお届けすることで、同時に廃棄物の発生抑制につなげることを目的とするものです。</p>	
③協働の必要性・メリット なぜ、市と協働で実施したいのか、協働することの必要性を記入してください。 また、市民・団体・市のメリットをそれぞれ具体的に記入してくだ	必 要 性	<p>これまでの慣習を見直し、食べることができる食品を廃棄しないための取組を市内で広げるには、日々「未使用食品」を必要としている方に届けている市内の NPO 法人フードバンクひらつか (以下「FB ひらつか」という。)と廃棄物施策を担う市環境部が協働して仕組みを作ることが有効です。</p>
	メ リ ツ ト	<p>(市民のメリット：市民が受けられるサービスや解決される課題など)</p> <p>相対的貧困者は、FB ひらつかを通じて安定的に食品を得ることができます。事業者は FB ひらつかが構築する WEB アプリを用いたプラットフォームに参加することで、税制上の全額損金処理が可能な食品提供をしやすくなるほか、廃棄物処理費の低減、CSR の向上が期待できます。</p>

<p>さい。</p>	<p>(団体のメリット：行政が持つ情報等の活用や信頼性の確保など) プラットフォームの構築により幅広い業種から、多様な食品等の寄付を募りやすくなります。市の食品ロス対策の1つとして位置づけられるため事業の信頼性が増すので、活動がしやすくなります。</p> <p>(市のメリット：団体が持つ専門性やノウハウの活用など) FB ひらつかのノウハウを共有し、協働することで「食べることができる食品を廃棄しない」ための仕組みづくりが構築できます。</p>
<p>④事業のアピールポイント</p> <p>この事業の先駆性、先進性、創意工夫、事業の売りや熱い思いなどアピールできることを記入してください。</p>	<p>税制上の損金処理が可能になる食品提供先のフードバンクだからこそ、このプラットフォームの構築が可能な事業です。食品の運搬等に要する費用も税制上の対象となります。FB ひらつかにとっては、プラットフォームを基にした効率的な食品の管理・配送や使用料の取得、損金処理手続きを円滑化する同システムは事業者にとっては寄付行為を促進する手立てとなります。このことは安定的に食を必要な方にお届けすると同時に、廃棄物の削減につながります。食品ロス削減と食の安定供給を持続可能なものとする『三方よし』の仕組みが構築できると考えます。</p>

⑤事業概要・計画

スケジュール・人員配置など時系列、箇条書きで具体的に記入してください。

事業概要

食品関連事業者は大量に同じ食品を在庫として所有している企業を対象に、その在庫が廃棄になる際、その食品をフードロス削減目的として **FB** に寄付して頂くよう促していきます。具体的には製造業、加工業、卸売業が主になります。加えて、従業員向けの売店や小売店なども対象としていきます。その食品は食品関連事業者が **WEB** アプリを利用して廃棄食品の登録を行い、主に **FB** が食品関連事業者へ回収に伺い、合意書、契約書に基づき **FB** の所有物として **WEB** アプリでの管理、**FB** 利用者への無償配布を行います。それにより相対的貧困の解消に寄与していきます。

運営費

WEB アプリを軸として利用料を頂戴しこの活動を継続していく運営費としていきます。利用料については月 2000 円～廃棄にかかる費用相当額で設定していこうと考えています。

目標企業数×月額 2000 円＝市の支出額

に近くなるよう設定してあります。

目標に届くということは、4 年目以降も自立した運営が可能であることを示しています。

仕組み

食品を寄付する側に、この活動を促進するメリットがございます。2019 年 5 月に公布、同年 10 月に施行となった食品ロス削減推進法により、食品ロスの削減が推進されるための目玉ともいえるべき、食品廃棄行為の寄付への転換においては全額、寄付金としては扱わない、というメリットを市内食品関連事業者に受けて頂きながら食品ロス削減を実行して行くことが出来ます。これにより、食品関連事業者は廃棄物処理費の削減による金銭的メリット、**CSR** の向上を得ることになります。

モデルケース

1 食品関連事業者がまだ食べられる食品を 100g 入り 200 円の品を 5000 個、500 k g 程（中型トラックの 1/4 程度）廃棄しなくてはならなくなった。

2 廃棄をする場合、廃棄費用は処分費 50 円/k g 運搬費 48 円/k g 計 98 円/k g かかる。49000 円の廃棄費用となる。

3 寄付をする場合、帳簿価格 200 円の商品 5000 個で 100 万円の寄付となり寄付控除を超えて税金がかかってしまう。

例) 資本金 1000 万円 所得 1500 万円 1 年決算の法人の場合
(1000 万円×12/12×2.5/1000+1500 万円×2.5/100) /4=10 万円
が損金計上できる額

このケースで税金が 30%かかったとして
寄付金 100 万円に対し 10 万円の損金計上をしても、残りの 90 万円には
税金がかかり 90 万円×0.3=27 万円の費用がかかる。

4 処分費用 4.9 万円を支払うか、寄付をして 27 万円支払うか、金額的メリ
ットは廃棄したほうが圧倒的に良い。

5 この法律の施行により、フードバンクへの寄付は全額、帳簿価格にて損
金計上が可能となる。(平塚税務署法人税担当加藤様に確認済み) それによ
り、廃棄した場合 4.9 万円、寄付した場合 0 円となり、金額的メリットは
4 に対し逆転する。

全額寄付金として扱わない→全額損金算入が認められるためのポイント
は、

1、フードバンクへ寄附した食品が、「食品ロス削減のためである」という
こと。社内ルールに従って、廃棄予定の食品をフードバンクに提供するも
の。

2、社外から見て、提供した食品が目的以外に使われないことが担保され
ること。(関係法令通達 法人税法 第 22 条第 3 項、第 37 条)
これはこういう理由で廃棄する相当のもので、合意書内できちんとルール
化されていること。

の 2 点です。

実務的には、社内ルール、合意書、契約書等の作成、実際に廃棄が出た際、寄付できる食品があることをフードバンクに通知、食品関連事業者の都合を通知、フードバンク側の効率の良い回収ルート作成、それに沿った回収日の通知、在庫管理、賞味期限の管理、食品のトレース、配った食品の目的と行先の通知、企業の損金処理、などをしなければなりません。残念ながら我々フードバンクひらつかにはこれを一件ずつデータ作成して食品関連事業者の満足いく対応をしていくだけの能力も人数もありません。また、企業側もこの新しい法律を熟知している人ばかりではなく、雛形がない現状での社内ルールや契約書などの作成、食品のトレースにおいては多大な労力がかかり、これが企業の食品ロス削減へ一歩踏み出せない理由にもなりかねません。

そこで、既に販売されている在庫管理アプリにはない、フードロス削減にかかわる専用 WEB アプリの開発を行い、試行していきます。内容については上記行程を極力網羅し、互いにリアルタイムに現状を把握できるようにしていく予定です。また、集計の際もアプリ内での集計、成果の報告が可能です。これにより、より簡潔に食品ロスへ舵を切れる企業が増えていくと考えます。

3年目は食品関連事業者等への営業を拡充することを目標とします。

☆WEB アプリ開発業者を「協力業者」と表記

時期	作業内容
4~9月	<ul style="list-style-type: none"> ・協力業者は WEB アプリやF Bの WEB 上の操作環境等をF B(5)とともに改善修正 ・FB は営業活動をし、食品関連事業者等の協力を要請する
10月~	<ul style="list-style-type: none"> ・F B(3)は食品関連事業者等に周知、引き続き協力を要請する

※カッコ書きの数字はF B人員数

⑤事業概要・計画

スケジュール・人員配置など時系列、箇条書きで具体的に記入してください。

<p>⑥役割分担</p> <p>団体、市の役割を具体的に記入してください。</p>	<p>(団体の役割)</p> <p>WEB アプリを協力業者と開発、食品関連事業者等への周知 (営業) WEB アプリの運営 (保守・維持管理は協力事業者) イベントやメディアでの広告</p> <hr/> <p>(市の役割)</p> <p>食品関連事業者等への周知、広報等の媒体を用いた周知 庁内関係課・保健所との連携・周知 F Bと協力業者との打ち合わせへの参加</p>
<p>⑦他団体との連携</p> <p>この事業に関し、他団体等と連携の実績や予定があれば記入。</p>	<p>WEB アプリ開発のため協力業者と連携を予定 食品関連事業者等への周知のため商工会議所等と連携を予定</p>
<p>⑧成果目標 (目標値)</p> <p>できるだけ数値で具体的に記入してください。</p>	<p>WEB アプリ利用した事業者の数</p> <p>(成果目標値：100社)</p>
<p>⑨関連法令等</p> <p>事業実施に関連した法令等があれば記入してください。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・循環型社会形成推進基本法 ・食品循環資源の再生利用等の促進に関する法律 ・食品ロスの削減の推進に関する法律 <p>※ご不明の場合は、事業担当課へご確認ください。</p>
<p>⑩実施年度以降の展望</p> <p>今回提案の事業実施年度以降の展望を記入してください。</p>	<p><input type="checkbox"/> 実施年度以降も提案型協働事業で実施 ※市支出見込額 ()</p> <p><input type="checkbox"/> 提案型以外の方法で協働を継続</p> <p><input checked="" type="checkbox"/> 団体が単独で実施 <input type="checkbox"/> 行政が単独で実施 <input type="checkbox"/> 終了する</p> <p><input type="checkbox"/> その他 ()</p> <hr/> <p>(実施後の具体的な事業展開や上記の補足事項)</p> <p>3年目(令和4年度)事業終了までに協力事業者を増やし、事業を持続可能な状態とします。その後は団体が単独で同事業を引き続き実施します。</p>

2 企画提案団体の概要

①団体名	(フリガナ) トク化エイリカツウホウジンフートバンクヒラツカ 特定非営利活動法人 フードバンクひらつか		
②所在地	〒254-0911 平塚市山下 12-1 リゾート高麗 101		
③ホームページ	http://foodbank-hiratsuka.com		
④連絡担当者 及び連絡先	担当者	久松周史 (役職) 副理事長	
	電話	[REDACTED] (連絡可能な時間帯) 11時から16時	
	FAX	[REDACTED]	e-mail [REDACTED]
	住所	[REDACTED]	
⑤設立年月	2017年 7月 (法人格取得年月 2018年 12月)		
⑥会員の状況	個人会員	16人 (うち平塚市民 14人)	団体会員 1団体
⑦活動内容 ・活動実績	<ul style="list-style-type: none"> ・まだ食べられるのに捨てられてしまう食品を一般家庭や企業などから寄付を受け、ひとり親家庭や支援を必要とされる方、児童福祉施設などへ食品を無償で支援する活動を行っています。 ・現在、平塚市環境部とは食品ロス対策の一環として、毎月1回市役所1階の多目的ホールでフードドライブ(食品寄付の受付)を行っています。 ・活動実績は2021年3月現在において、支援回数が2072回です。 		
⑧協働事業との関わり	<input checked="" type="checkbox"/> 新たな事業 <input type="checkbox"/> 今までの活動の拡大 <input type="checkbox"/> 今までの活動と同規模		
⑨活動体制 活動に携わるメンバーを記入してください。 10名以上の場合は、主なメンバーを記入してください。	役職等	氏名	協働事業での役割
	①代表	大関めぐみ	総括
	②副理事長	久松周史	営業、ソフト開発業者との調整、経理
	③スタッフ	瀧澤好美	ソフト開発業者との調整、営業
	④スタッフ	齊藤園枝	在庫管理、配達、広報、電話対応
	⑤スタッフ	山田友子	在庫管理、配達、広報、電話受付
	⑥スタッフ	林真由美	在庫管理、配達、広報、電話受付
	⑦スタッフ	小田中勉	在庫管理、配達、広報、電話受付
	⑧スタッフ	岡田真一	営業、経理補助

3 収支予算書【3カ年目分】(この協働事業だけの金額を記入してください)

総事業費	6,558,604 円	市の支出	4,258,604 円
		団体の支出(他の収入等)	2,300,000 円

①収入

金額単位：円

項目	予算額	内容
市の支出	C 4,258,604	
団体の支出	0	
事業収入	2,300,000	2,000 円/月×12 ヶ月×50 店舗 2,000 円/月×10 ヶ月×10 店舗 2,000 円/月×9 ヶ月×10 店舗 2,000 円/月×8 ヶ月×10 店舗 2,000 円/月×7 ヶ月×10 店舗 2,000 円/月×6 ヶ月×10 店舗 2,000 円/月×5 ヶ月×10 店舗 2,000 円/月×4 ヶ月×10 店舗 2,000 円/月×3 ヶ月×10 店舗 2,000 円/月×2 ヶ月×10 店舗 2,000 円/月×1 ヶ月×10 店舗
収入合計	A 6,558,604	

②支出

項目	予算額	うち市の支出分	積算単価のなど具体的な内容
人件費	5,071,334	2,771,334	【営業、アプリ管理、集荷・配送】 4,226,112 円 (5 名分) →1012 円×4 時間×17.4 日×5 名×12 ヶ月 【総括】845,222 円 (1 名分) →1012 円×4 時間×17.4 日×1 名×12 ヶ月
交通費	522,000	522,000	522,000 円 (5 名分) →500 円/日×17.4 日×5 名×12 ヶ月
通信費	109,200	109,200	請求書発行予定枚数 1150×84 円 参加企業とのやり取り 1 回×150 社×84 円
広告宣伝費	60,000	60,000	チラシ作成 60,000 円→20,000 円×3 種 (光沢紙薄手 両面カラー 100 部 A4 仕上がり 簡潔なデザイン費両面 18000 円 印刷 100 部 2000 円) ①協働事業について②企業へのアピ ールと具体的な手順③困窮世帯の現状と感謝の お手紙など

外注費①	160,270	160,270	表彰状 基本の1枚2200円＋名称変更して作成1枚990円×149社＋送料880円×12回（1か月に1回発注した場合）
外注費②	635,800	635,800	食ロス削減WEBアプリ開発関連経費
支出合計	B 6,558,604	D 4,258,604	

注) 収入合計 A と支出合計 B、及び、市の支出 C と支出合計 D は同額となります。

注) 市の支出の他に、県やその他の助成金がある場合は、収入・支出に明記してください。

※初回提案時の審査会の選定では、2カ年目以降の事業の採択及び市の支出額を保証するものではありません。各提案年度の審査会により事業の採択と事業費の査定を行います。また、事業の実施は提案年度（各実施年度の前年度）の3月議会での承認により決定されます。

令和4年度「事業」提案書

令和3年 7月 30日

(宛先)

平塚市長

	(特定非営利活動法人)
団 体 名	湘南NPOサポートセンター
代 表 者	坂田美保子
事業担当課	協働推進課
提 案 型	<input type="checkbox"/> 行政提案型 <input checked="" type="checkbox"/> 市民提案型 (<input checked="" type="checkbox"/> 自由部門 <input type="checkbox"/> テーマ設定部門)
新規・継続	<input type="checkbox"/> 新規 (提案 年分) <input checked="" type="checkbox"/> 継続 (令和3年度～)

協働事業について、以下のとおり事業提案します。

1 提案内容 (事業担当課との意見交換をもとに、具体的に詳しく記入してください。)

①事業名	「社会環境の変化に対応した地域活動の仕組みづくり支援事業」	
②事業の目的・必要性 なぜこの事業が必要か、どのような市民サービスの向上が図られるのかなど。	<p>平塚市との協働で実施している「ひらつか地域づくり市民大学」は、平成25年より8年間実施し、延べ915人を超える地域の皆さんに参加していただいている。その中で、多くの地区において、“役員のなり手がいない”、“役員の負担が大きい”等切実な声、意見をいただいていた。自治会離れや子ども会育成会の消滅、小・中学校PTA役員の辞退、各種団体役員の高齢化等、地域活動の担い手不足が多く地域で大きな課題となっている一方、今から45年前に発行された平自連だよりに、当時行われた自治会アンケートの結果が掲載されているが、その頃から担い手不足が課題となっていた。</p> <p>こうした中、昨年度来の新型コロナウイルス感染防止対策の影響により、様々な地域活動、地域行事が自粛、中止となり、開催内容や方法についても見直していくきっかけとなった。</p> <p>本事業では、地域活動を行う上で参考となるような事例や新しいやり方の試行経過をまとめることで、次世代へ継承していける持続可能な地域活動の仕組みづくり支援を目的とする。</p>	
③協働の必要性・メリット なぜ、市と協働で実施したいのか、協働することの必要性を記入してください。 また、市民・団体・市のメリットをそれぞれ具体的に記入してください。	必要性	1年目に実施したアンケートをもとに、地域ごとに考えていくべき課題やきっかけを地域に提示する。また、それに対してどう取り組んでいくかを、地域からの要請に応じて、行政やNPOによる支援等を行うとともに、具体的取組みを事例集として取りまとめることで地域活動を支援する。それを横展開していくことで地域活動の活性化につながっていくと考える。
	メリット	<p>(市民のメリット：市民が受けられるサービスや解決される課題など)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・担い手不足等の課題解決へのヒントを得られる。 ・地域活動の再編等のきっかけを得られる。 ・地域活動の課題解決について支援を受けることができる。 <p>(団体のメリット：行政が持つ情報等の活用や信頼性の確保など)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・市と一緒に取り組むことで、地域からの信頼が得やすくなる。 ・「地域活動支援」という団体の目的が達成できる。

	<p>(市のメリット：団体が持つ専門性やノウハウの活用など) 地域と行政だけでは解決できなかった担い手不足等の課題に、市民活動団体や大学等との連携・協働の経験を持つ団体の専門性やノウハウを活用することで、解決へのヒントにつなげることが期待できる。</p>
<p>④事業のアピールポイント</p> <p>この事業の先駆性、先進性、創意工夫、事業の売りや熱い思いなどアピールできることを記入してください。</p>	<p>昨年度の市民大学においては、「持続可能な地域運営に向けたリスタート」と題して、市内4地区（土屋地区、城島地区、豊田地区、横内地区）のオンライン型WS（ワークショップ）を開催し、コロナ禍の現状と今後の地域活動に対する住民の理解と協力について不安感を募らせている生の声を多く聞いた。</p> <p>市でも27地区の連合自治会を対象としたヒアリングや市長とのほっとミーティングを実施し、地域活動における担い手不足や負担増、コロナで行事ができない中で地域活動の存在意義が示しづらい等の課題について再認識された。</p> <p>本事業は、地域の課題を再確認し、地域の皆さんがそれぞれの地区で共有することがはじめの一步であると考え、令和3年度においては、市内全地区（27連合自治会）の地域活動関係者（初めて地域活動に参加する人もいる）に向けたアンケートを実施する。アンケート集計・分析後、自治会長が集まる研修会等の場で、報告会を実施する。</p> <ul style="list-style-type: none"> これらのアンケートから導き出された結果から、共通する課題を抽出し、2年目以降に実際に解決に向け取り組んでいくテーマを3つ設定する。テーマは令和3年度アンケートの報告会で発表し、各テーマ1地区ずつモデル地区を選定する。モデル地区は、地域の主体性を重んじ、手上げ方式（自発的参画）とする。 モデル地区でのワークショップ等によりそれぞれの課題の解決策について地域・行政・NPOで検討を重ね、地域にはそこで得られた解決策や新しいやり方を試行・実践してもらおう。ワークショップにはNPOがこれまでの活動の実践から培った経験をもとに専門家からの助言を受け実施する。 モデル地区での一連の取組みを事例集としてまとめ、横展開することで、同様の課題を抱えた地区の課題解決に向けた取組みの参考としてもらうことで地域活動の活性化に貢献できる。

<p>⑤事業概要・計画</p> <p>スケジュール・人員配置など時系列、箇条書きで具体的に記入してください。</p>	<p>(1) 1年目のアンケート結果を踏まえた共通課題からモデル地区を選定(2名) 1年目～5月</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地域特性に対応した課題の差異の整理 ・共通課題をもとにその解決に向けたテーマを3つ程度設定し、試行的に取り組むモデル地区を選定する。 <p>*想定されるテーマ</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地域活動の再編等に向けた取り組み(地域行事の見直し等) ・活動主体の連携、協働に向けた取り組み(担い手不足の解消等) ・魅力ある新たな自治会に向けた取り組み <p>(2) モデル地区での課題解決策の試行に向けたワークショップの実施(6名/地区)</p> <p>→ 6～12月 6～7回程度(1回/月程度)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・モデル地区において、自治会をはじめとする各種団体の参加による話し合いの場を設け、ワークショップ形式で地域の基礎情報(人口構成、地域資源等)の現状、今後の見通し、取り組むべきポイントを洗い出す ・モデル地区において、(1)の各テーマの具体的な取り組みの内容、体制、活用する支援制度等を試行的に企画し、実施する <p>(3) 試行実施のまとめ(4名)</p> <p>→ 12～2月</p> <ul style="list-style-type: none"> ・上記(2)の検討プロセス、参考とした先進事例等について整理し、次年度検討する事例集の準備とする。 <p>(4) 報告会(4名)</p> <p>→2月</p> <ul style="list-style-type: none"> ・モデル地区において、試行的実施の取りまとめならびに次年度本格的実施に向けた改善ポイント等についての報告会を開催する。
<p>⑥役割分担</p> <p>団体、市の役割を具体的に記入してください。</p>	<p>(団体の役割)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・アンケート結果の集計、分析及び課題の抽出、共通課題案の検討 ・地域情報の整理・可視化方法の作成 ・ワークショップの企画・実施・運営 ・事例集案の作成 ・報告会の運営 <hr/> <p>(市の役割)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・モデル地区の抽出と協力依頼 ・ワークショップの実施協力・日程の調整 ・平自連、市の関係課等との調整 ・広報
<p>⑦他団体との連携</p> <p>この事業に関し、他団体等と連携の実績や予定があれば記入。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・地域づくり市民大学のネットワーク(専門家、講師等)を通じた有識者、関係者及び大学等との連携実績を活用 ・試行支援の検討にあたっては、必要に応じ、当法人との連携の実績がある東海大学や市民活動団体に協力を要請する。

2 企画提案団体の概要

①団体名	(フリガナ) トク化エイカトウホウジン ショウナンエヌピーオーサポートセンター 特定非営利活動法人 湘南NPOサポートセンター			
②所在地	〒259-1517 平塚市長持 568 番地の 5			
③ホームページ	http:// snposc.org			
④連絡担当者 及び連絡先	担当者	鈴木 奏到 (役職) 理事		
	電話	[REDACTED] (連絡可能な時間帯) 10:00~18:00		
	FAX	[REDACTED]	e-mail	[REDACTED]
	住所	[REDACTED]		
⑤設立年月	平成 22 年 6 月 (法人格取得年月 平成 24 年 3 月)			
⑥会員の状況	個人会員	49 人 (うち平塚市民	39 人	団体会員 1 団体
⑦活動内容 ・活動実績	<p>当法人は、「一人ひとりが自分らしく暮らせるまち」を願い、社会のために何かしたい人、市民活動・地域活動を行う人を応援することで、組織の壁・心の壁を越えて、人々がつながり共に行動する市民社会の実現をミッションに、H22. 6 月任意団体として設立。H24. 3 月 NPO 法人格を取得して現在に至る。</p> <p>過去 3 年間の主な実績</p> <p>1. まちづくり事業部</p> <ul style="list-style-type: none"> ○「ひらつか地域づくり市民大学」開催 <ul style="list-style-type: none"> ・平成 25 年度～令和 2 年まで毎年 1 回開催、計 8 回実施 (受講者実績 915 名：公開講座含む) 平塚市協働推進課・平塚市中央公民館・平塚市福祉総務課との協働事業 ○神奈川県との協働事業 <ul style="list-style-type: none"> ・共生社会仕組みづくり外出支援モデル事業 (平成 30 年度～) ・農福連携マッチング等支援事業 (令和元年度～) ・地域の支え合い仕組みづくり事業 (令和 2 年度～) ○「NPO・市民活動を支える人たちとゆるゆる語る会」令和元年 9 月 講師：松原明氏 (認定 NPO 法人シーズ・市民活動を支える活動を進める会 前代表理事) 参加者数 18 名 <p>2. ひらつか市民活動センター協働運営</p> <ul style="list-style-type: none"> ・平成 29 年度～平塚市行政提案型協働事業により、ひらつか市民活動センターの協働運営を開始。令和 2 年度からは協働委託として市民活動センターを運営中。(登録団体：市民活動団体 338 団体、一般団体 141 団体) ・崇善公民館との合築による相互利活用 (登録団体 124 団体) ・令和元年に実施した団体向けアンケート調査結果から 90%以上の高い評価をいただいている。 			

	<p>3. メディア事業部</p> <ul style="list-style-type: none"> ○「ローカルメディア「ひらつか地域魅力ネット」の運営 平成 30 年以降、実績 89 本の記事投稿 地域で活動する魅力ある人・団体・場所・店舗等を取材し、Web サイトへ掲載。平塚の魅力発信を行うとともに市民活動・地域活動の情報発信の場、交流の場として活用していただくことを目的としている。 ○「スマホサロン」毎週木曜午前開催 年間利用者延べ人数 110 名 IT スキルの高いシニア会員が中心となり、市民活動・地域活動団体へマンツーマンによる IT 支援を実施している。 ○市民活動・地域活動団体のサポート事業として、チラシ・リーフレット・情報紙などの作成及び HP・ブログの作成、及び作成のための相談助言等を実施 (市民活動団体・平塚市自治会連合協議会情報紙・市 P 連情報紙・等他多数) <p>4. 大学・企業・NPOとのネットワーク事業</p> <ul style="list-style-type: none"> ・東海大学梶田ゼミとの連携による地域活動支援 (ひらつか地域づくり市民大学、外出支援調査研究事業他) ・神奈川大学平塚地区 BBS 会との連携による吉沢寺子屋の運営支援 																																		
<p>⑧協働事業との関わり</p>	<p><input type="checkbox"/>新たな事業 <input checked="" type="checkbox"/>今までの活動の拡大 <input type="checkbox"/>今までの活動と同規模</p>																																		
<p>⑨活動体制</p> <p>活動に携わるメンバーを記入してください。 10名以上の場合は、主なメンバーを記入してください。</p>	<table border="1"> <thead> <tr> <th data-bbox="365 1025 617 1070">役職等</th> <th data-bbox="624 1025 930 1070">氏名</th> <th data-bbox="930 1025 1442 1070">協働事業での役割</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td data-bbox="365 1081 617 1126">① 理事長</td> <td data-bbox="624 1081 930 1126">坂田 美保子</td> <td data-bbox="930 1081 1442 1126">全体統括責任者</td> </tr> <tr> <td data-bbox="365 1137 617 1182">② 理事</td> <td data-bbox="624 1137 930 1182">鈴木 奏到</td> <td data-bbox="930 1137 1442 1182">事業推進責任者・企画プロデュース</td> </tr> <tr> <td data-bbox="365 1193 617 1238">③ 理事</td> <td data-bbox="624 1193 930 1238">梶田 佳孝</td> <td data-bbox="930 1193 1442 1238">大学等との連携推進及び分析・報告</td> </tr> <tr> <td data-bbox="365 1249 617 1294">④ 理事</td> <td data-bbox="624 1249 930 1294">長谷川 正幸</td> <td data-bbox="930 1249 1442 1294">アンケート分析・ヒアリング企画他 説明会・報告会運営</td> </tr> <tr> <td data-bbox="365 1305 617 1350">⑤ 理事</td> <td data-bbox="624 1305 930 1350">氏家 真美</td> <td data-bbox="930 1305 1442 1350">ヒアリングまとめ・説明会・報告会 運営</td> </tr> <tr> <td data-bbox="365 1361 617 1406">⑥ 正会員</td> <td data-bbox="624 1361 930 1406">宮崎 道名</td> <td data-bbox="930 1361 1442 1406">アンケート企画・分析・ヒアリング 企画まとめ・説明会・報告会運営</td> </tr> <tr> <td data-bbox="365 1417 617 1462">⑦ 正会員</td> <td data-bbox="624 1417 930 1462">津田 潤</td> <td data-bbox="930 1417 1442 1462">地域との調整・アンケート・ヒア リングまとめ他</td> </tr> <tr> <td data-bbox="365 1473 617 1518">⑧ 正会員</td> <td data-bbox="624 1473 930 1518">猪俣 位</td> <td data-bbox="930 1473 1442 1518">地域との調整・アンケート・ヒア リングまとめ他</td> </tr> <tr> <td data-bbox="365 1529 617 1574">⑨ 正会員</td> <td data-bbox="624 1529 930 1574">高橋 貴之</td> <td data-bbox="930 1529 1442 1574">アンケート・ヒアリングまとめ 説明会他</td> </tr> <tr> <td data-bbox="365 1585 617 1630">⑩ 会計</td> <td data-bbox="624 1585 930 1630">大澤 千鶴</td> <td data-bbox="930 1585 1442 1630">会計担当</td> </tr> </tbody> </table>	役職等	氏名	協働事業での役割	① 理事長	坂田 美保子	全体統括責任者	② 理事	鈴木 奏到	事業推進責任者・企画プロデュース	③ 理事	梶田 佳孝	大学等との連携推進及び分析・報告	④ 理事	長谷川 正幸	アンケート分析・ヒアリング企画他 説明会・報告会運営	⑤ 理事	氏家 真美	ヒアリングまとめ・説明会・報告会 運営	⑥ 正会員	宮崎 道名	アンケート企画・分析・ヒアリング 企画まとめ・説明会・報告会運営	⑦ 正会員	津田 潤	地域との調整・アンケート・ヒア リングまとめ他	⑧ 正会員	猪俣 位	地域との調整・アンケート・ヒア リングまとめ他	⑨ 正会員	高橋 貴之	アンケート・ヒアリングまとめ 説明会他	⑩ 会計	大澤 千鶴	会計担当	
役職等	氏名	協働事業での役割																																	
① 理事長	坂田 美保子	全体統括責任者																																	
② 理事	鈴木 奏到	事業推進責任者・企画プロデュース																																	
③ 理事	梶田 佳孝	大学等との連携推進及び分析・報告																																	
④ 理事	長谷川 正幸	アンケート分析・ヒアリング企画他 説明会・報告会運営																																	
⑤ 理事	氏家 真美	ヒアリングまとめ・説明会・報告会 運営																																	
⑥ 正会員	宮崎 道名	アンケート企画・分析・ヒアリング 企画まとめ・説明会・報告会運営																																	
⑦ 正会員	津田 潤	地域との調整・アンケート・ヒア リングまとめ他																																	
⑧ 正会員	猪俣 位	地域との調整・アンケート・ヒア リングまとめ他																																	
⑨ 正会員	高橋 貴之	アンケート・ヒアリングまとめ 説明会他																																	
⑩ 会計	大澤 千鶴	会計担当																																	

3 収支予算書（この協働事業だけの金額を記入してください）

総事業費	2,812,800 円	市の支出	2,758,800 円
		団体の支出（他の収入等）	54,000 円

①収入

金額単位：円

項目	予算額	内容
市の支出	C 2,758,800	
団体の支出	54,000	食糧費（会議時のお茶代）は団体負担とする
事業収入	0	
収入合計	A 2,812,800	

②支出

項目	予算額	うち市の支出分	積算単価のなど具体的な内容
謝金（有識者）	45,000	45,000	ワークショップ企画、報告会、事例集準備のアドバイス 15,000*3 人回=45,000
賃金	2,568,000	2,568,000	<p>全体企画・進行管理・全体まとめ 4H*10 日*2 人*2,000=160,000 4H*3 日*2 人*2,000=48,000 4H*3 日*4 人*1,500=72,000</p> <p>アンケート結果を踏まえた課題抽出 4H*4 日*2 人*2,000=64,000</p> <p>テーマの設定とモデル地区選定 4H*4 日*2 人*2,000=64,000</p> <p>モデル地区での取り組み試行に向けたワークショップの実施 →7回（WS 事前準備+WS 当日の2日/回） 4H*14 日*4 人*3 地区*1,500=1,008,000 4H*14 日*2 人*3 地区*2,000=672,000</p> <p>試行実施のまとめ（報告会資料） 4H*2 日*4 人*3 地区*1,500=144,000 4H*2 日*2 人*3 地区*2,000=96,000</p> <p>報告会運営 →1回（準備日+当日の2日） 4H*2 日*4 人*3 地区*1,500=144,000 4H*2 日*2 人*3 地区*2,000=96,000</p>

印刷費	73,800	73,800	用紙代 6箱(500枚/箱)*500=3,000 記録用 USB メモリ, プリンターインク等消耗品 3000×3本、7000×3本 計 30,000 資料印刷 WS 15部*7回*3地区*20=6,300 報告会 15部*1回*3地区*100=4,500 全体取りまとめ 100部*300=30,000
旅費・交通費	72,000	72,000	モデル地区 WS (7回)、報告会 (1回) のバス代 6人*8回*3地区*500=72,000
食糧費	54,000	—	モデル地区 WS (7回)、報告会 (1回) のお茶代 15人*8回*3地区*150=54,000
支出合計	B 2,812,800	D 2,758,800	

注) 収入合計 A と支出合計 B、及び、市の支出 C と支出合計 D は同額となります。

注) 市の支出の他に、県やその他の助成金がある場合は、収入・支出に明記してください。

※事業の実施及び予算は3月議会での承認により決定されます。

※この事業提案書は、個人情報の一部を除き、ホームページ等で公表します。

令和4年度「事業」提案書

令和3年7月28日

(宛先)

平塚市長 殿

団体名	特定非営利活動法人ぜんしん
代表者	柳川 涼司
事業担当課	産業振興部・農水産課、平塚市農業委員会
提案型	<input type="checkbox"/> 行政提案型 <input checked="" type="checkbox"/> 市民提案型 (<input checked="" type="checkbox"/> 自由部門 <input type="checkbox"/> テーマ設定部門)
新規・継続	<input checked="" type="checkbox"/> 新規 (提案3年分) <input type="checkbox"/> 継続 (平成 年度～)

協働事業について、以下のとおり事業提案します。

1 提案内容 (事業担当課との意見交換をもとに、具体的に詳しく記入してください。)

①事業名	農業体験を通して不登校やひきこもりの若者と人材不足に悩む農家をつなぐ就農支援事業 ～平塚市「スマートライスセンター」の通年営業モデルの創出に向けて～
②事業の目的・必要性 なぜこの事業が必要か、どのような市民サービスの向上が図られるのかなど。	<p>当団体は過去6年に渡り、平塚市と不登校・ひきこもりに悩む親子へ先ず、家から外へ出て、きっかけを得る為の居場所を提供して来た。次いで、居場所で元気になれた若者が同市・中央図書館に出向き、本の修繕等のボランティア体験を行うことで就労に向けて自信を培うまでに至ったが、未だ就労に結びつかない若者が存在している。その為、より実践的な職業体験の場を設け、彼らが就労に繋がる機会を提供する必要がある。</p> <p>一方、県下トップの米どころである本市の稲作を維持していくには、水稲作業を受託する組織の存在が大きく、とりわけ稲作の全作業を請け負うことが出来る湘南ライスセンター株式会社への委託ニーズが年々増えている。しかしながら、構成員の平均年齢は70代半ばといった現状であり、労働力が衰退している。そのため、若者の労働力が求められているが、新たに若者を呼び込むには、年間を通した営業体制の構築が必要である。</p> <p>本事業は、働きたい意思を持ちながら働きづらさを抱える若者が、ライスセンターで農業体験に参加する。彼らの自立を促す社会参加の場を確保するとともに、適性に応じてライスセンターでの就農を支援しながら、同所の通年営業の可能性を検証していくことを目的とする。</p> <p>平塚市の農業施策として、スマート農業を実装し、地域を超えて稲作の全工程を請け負える法人化したライスセンター (スマートライスセンター) の創出を目指している。</p> <p>また、同市・農業政策としては、50ha以上を請け負え、稲作以外の営業体制の創出による通年営業できるライスセンターの法人化を目指す過程で、既存のライスセンターにおいて、若者をどのように迎え入れながら、新たな業務に取り掛かることができるかの実証をスタートしていきたい。</p> <p>また、癒しなどの効果を発揮する『農業』において、より実践的な職業体験の場を求め、若者の適性に応じた寄り添い型の自立支援と農業経営の業務改善提案などができるNPOが、市と協働して事業を推進していく必要があると考えている。デジタル機器を得意とするひきこもり等の若者が農業体験等を通し、自身の適性を見極めながら活躍の場を広げることで自立意欲を高め、就農できることを期待したい。</p>

<p>③協働の必要性・メリット</p> <p>なぜ、市と協働で実施したいのか、協働することの必要性を記入してください。</p> <p>また、市民・団体・市のメリットをそれぞれ具体的に記入してください。</p>	<p>必要性</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・相談から職業体験、就労へとワンストップで若者を自立へ導ける ・社会体験の場ほかへ参加する若者を団体スタッフが手厚く、多角的にサポートする必要がある(社会への緩やかな橋渡し機能) ・湘南ライスセンターの担い手不足を補うため、若者の適性に応じた様々な農作業や業務について検討・提案できる
	<p>メ リ ッ ト</p>	<p>(市民のメリット：市民が受けられるサービスや解決される課題など)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・若者は、自分の得意とする分野で活躍できる場が得られる ・若者は、小さな成功体験を積むことで自己肯定感が回復・向上する ・若者は、自立に向け、より実践的な体験ができ、就労も可能になる ・湘南ライスセンターは、異なる個性を持った仲間を受け入れることで、他者を思いやる雰囲気醸成され、働きやすい環境づくりに向けた組織運営の意識が高まる ・湘南ライスセンターは、作業を補ってもらいながら、地域社会における農業の価値の向上につなげることができる ・湘南ライスセンターは、若者の個性を引き出すために業務の見直しを検討し、効率を高めることができる ・農家・若者ともに、新たな労働力・雇用の創出につながる
	<p>メ リ ッ ト</p>	<p>(団体のメリット：行政が持つ情報等の活用や信頼性の確保など)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・事業実施に要する「職業体験」の場を確保できる ・数多くの職業人と接する為、会話や対人訓練等の場を得られる ・協働することで農家の方々と団体が連携し、事業を展開し易くなる <p>(市のメリット：団体が持つ専門性やノウハウの活用など)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・スマートライスセンターの若者雇用のモデルとして、波及効果が見込まれる(取り組みや成功事例のPRを行う等、多くのひきこもり状態にある若者のチャンスになる) ・ライスセンターの通年営業体制の構築に向けて若者の適性に応じた様々な提案が得られると同時に、就農に直結する可能性がある ・誰もが活躍できる地域社会の実現のために協働することは、地域社会における農業の価値の向上につながる ・ライスセンターが受託する量やメニューを増やすことができ、益々高齢化する農家のニーズに応えることができる ・市内の相談機関等を訪ねても解決策を得られない不登校やひきこもり当事者へワンストップで、支援の手を差し伸べられる

<p>④事業のアピールポイント</p> <p>この事業の先駆性、先進性、創意工夫、事業の売りや熱い想いなどアピールできることを記入してください。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ゲームやネット依存等で悩む若者が得意とするデジタル機器等を活用し、多様な人々と交流しながら新たな社会で活躍する機会を得られる ・不登校やひきこもりの若者は、団体の寄り添い型の手厚い支援を受けられるので、安心して体験等に参加し、ライスセンターに就労できる可能性がある ・コロナ禍にある中、若者たちは、屋外での農作業に参加することで、①生活習慣の改善が図られ、②達成感を得て、自己肯定感が醸成されることから自立意欲が更に高まることが期待できる ・農業技術の習得ほか、若者は就農に向けて段階的な準備を進める過程で農家とつながり、農作業の報酬を得られる機会が生まれる可能性がある ・スマート農業導入により「3K(きつい・汚い・危険)」とされて来た従来の農業イメージが、「かっこいい・稼げる・感動」へと変化しており、若者の参加が見込まれる(団体スタッフも体験に参加し、実感している) ・稲作の全行程を担うことができる「湘南ライスセンター」において、急務とされる人材不足が補われ、組織が活性化することで、都市農業の先駆的モデルを確立できる ・県下トップの米どころを維持する一助となり、はるみブランドの強化が可能になるほか、市農政が長い間、課題としてきた「ライスセンターの通年営業体制の構築」に向けた提案を行うことができる
<p>⑤事業概要・計画</p> <p>スケジュール・人員配置など時系列、箇条書きで具体的に記入してください。</p>	<p>初年度は、若者と農家の方々との信頼関係づくりを大切にしながら若者の自立を含め、スマートライスセンターの通年営業モデルの構築に向けた実証を進めるため、以下の事業を実施していく。</p> <ul style="list-style-type: none"> ①4月～11月 湘南ライスセンターで農家(各農家)の方々と初回ヒアリング等の実施、体験作業内容の打合せ、就農希望者の受入れに向けた話し合い、団体会議等の開催(16回) ②5月～2月 業務改善等に向けたミーティング…若者の適性に応じた業務提案のために、ライスセンターにおけるスマート農業を活用した業務内容等を検討する(3回) ③5月～3月 配布資料・打合せ・アンケート分析等の書類作成(46回) ④5月～11月 農作業の体験…播種、消毒、ハウス移動、草取り、収穫等の作業を湘南ライスセンターほかで体験する(10回) ⑤12月～3月 遊休農地等へ出向き、農家の方々と草刈りを実施(1回) ※5月～3月 体験等を踏まえ、デジタル的なサポート、または、ライスセンターの通年営業に向けた試験的な提案…パソコンを活用した事務作業ほかのお手伝い等について試験的な提案を行いながら、具体的なサポートを目指す(提案：3回) ⑥3月 実証してきた提案のまとめに向けて、若者と農家を交えた話し合いの場・振り返り(2回)
<p>⑥役割分担</p> <p>団体、市の役割を具体的に記入してください。</p>	<p>(団体の役割)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・不登校・ひきこもり等の経験をした「寄り添いスタッフ」の提供 ・農業体験者へ事前・事後の「メンタル的なケア」等の相談を実施 ・デジタルサポートを得意とする様々な若者の適性に応じたライスセンターでの業務提案(通年営業に向けた検討・提案) ・ゲーム攻略的な指標等を作成し、ライスセンターへの業務改善に向けた可視化ツールを提供(希望する体験者も段階的に作成に加わる)

(実施後の具体的な事業展開や上記の補足事項)

1年目の職業体験等にて農家の方々や諸機関との関係性の構築を慎重に進め、築き上げた信頼関係をもとに、翌年度以降は以下の通り、ライスセンターでの通年営業体制の構築に向けた事業を拡大していく。

・2年目は、職業体験等を重ねながら、実証・提案するサポート等を本格的に着手していく。日進月歩する農業技術の動向を踏まえながら、実証・提案するサポート等は、臨機応変に対応していきたい。また、業務内容等の情報整理を図り、様々な特性を持つ体験者の自立に向けた段階に応じて必要とされる「ノウハウや知識等を提供する場」を設ける為の準備も推し進めていく。

・3年目は、更に実証・提案した事業の実践にとりかかり、想定では、デジタル系サポート内容を拡大させていく(農薬散布ドローン等、リモート機材による作業ほか)。また、2年目に整理された業務内容等の情報を更新しながら、より多くの体験者を募る為の仕組みづくり等を検討している。

・3年目以降は、ライスセンターに人材バンク的機能を構築していくことや、市内の農家と連携し、若者の体験先や就農が可能となる場(若者が活躍できる就職先)を拡張していく事業をライスセンターとともに実施していきたい。加えて、困難な状態にある遊休農地の草取り等も実施していきたい。

2 企画提案団体の概要

①団体名	(フリガナ) トクテイヒエイリカツドウホウジン ゼンシン 特定非営利活動法人 ぜんしん		
②所在地	〒254-0026 平塚市中堂2番22号		
③ホームページ	https://www.zenshinpo.org		
④連絡担当者 及び連絡先	担当者	柳川 涼司 (役職) 理事長	
	電話	[REDACTED] (連絡可能な時間帯) 10時から22時	
	FAX	[REDACTED]	e-mail [REDACTED]
	住所	[REDACTED]	
⑤設立年月	平成 23 年 10 月 (法人格取得年月 平成 24 年 9 月)		
⑥会員の状況	個人会員	55 人 (うち平塚市民 21 人)	団体会員 団体
⑦活動内容 ・活動実績	<p>1)居場所の提供：不登校・ひきこもり当事者親子が集い、意見交換等を行う。 ・令和1年度 延参加者：122名 ・令和2年度 延参加者：90名</p> <p>2)就労支援相談会&プチ・パソコン講座の開催：ひきこもりやニート状態にあり、就労に悩む親子へ相談会や就職後に役立つパソコン講座等を開催。 ・令和1年度 延参加者：153名 ・令和2年度 延参加者：123名</p> <p>3)訪問支援：当事者親子の各家庭他へ訪問し、個別相談やパソコン講座等を実施。 ・令和1年度 163件 ・令和2年度 236件</p> <p>4)その他(講演会[神奈川県共催事業]、図書館ボランティア体験事業[平塚市協働事業]、eスポーツをテーマにした職業体験事業[神奈川県委託事業]、ほか)</p>		
⑧協働事業との関わり	<input checked="" type="checkbox"/> 新たな事業 <input type="checkbox"/> 今までの活動の拡大 <input type="checkbox"/> 今までの活動と同規模		
⑨活動体制 活動に携わるメンバーを記入してください。 10名以上の場合は、主なメンバーを記入してください。	役職等	氏名	協働事業での役割
	①理事長	柳川 涼司	事業全体の総括(産業カウンセラー)
	②副理事長	甲田 浩之	企画考案補佐、ピアサポーター
	③理事	手塚 明美	当事者・支援者の紹介、運営助言
	④理事	坂田 美保子	当事者・支援者の紹介、運営助言
	⑤理事	佐藤 五十男	当事者の紹介・受入れ、運営助言
	⑥農業委員会会長	佐藤 光夫	湘南ライスセンター情報の提供等
	⑦ガヤマファーム代表	菊池 創太	農業アドバイザー、体験先の提供
	⑧	来城 裕司	ピアサポーター、体験者補佐等
	⑨	浅倉 朱実	マネジメント、資料・計画等作成
⑩	柳川 範子	会計管理、収支決算報告の作成	

3 収支予算書（この協働事業だけの金額を記入してください）

総事業費	1,567,580円	市の支出	1,547,580円
		団体の支出(他の収入等)	20,000円

①収入

金額単位：円

項目	予算額	内容
市の支出	C 1,547,580	
団体の支出	20,000	団体の会計より支出
事業収入	0	職業体験者の参加費は、徴収しない
収入合計	A 1,567,580	

②支出

項目	予算額	うち市の支出分	積算単価などの具体的な内容
実証・検証報酬 (責任者)	517,500	517,500	総括責任者(産業カウンセラー/心理相談員): ①打合せ訪問・会議等: 5H×16日×1人×1,500円 ②業務改善等に向けたミーティング: 7.5H×3日×1人×1,500円 ③配布資料等の書類作成: 5H×30日×1人×1,500円 ④農作業の体験: 7.5H×10日×1人×1,500円 ⑤遊休農地の草刈り実施: 7.5H×1日×1人×1,500円 ⑥振り返り等の会議: 5H×2日×1人×1,500円
実証・検証報酬 (団体スタッフ)	493,500	493,500	団体スタッフ: ①打合せ訪問・会議等: 5H×16日×2人×1,050円 ②業務改善等に向けたミーティング: 7.5H×3日×2人×1,050円 ③配布資料等の書類作成: 5H×8日×2人×1,050円 ④農作業の体験: 7.5H×10日×2人×1,050円 ⑤遊休農地の草刈り実施: 7.5H×1日×2人×1,050円 ⑥振り返り等の会議: 5H×2日×2人×1,050円
事務用品費	132,800	112,800	ノートパソコン: 97,800円×1台、プリンター用インク代: 5,550円×4組、郵送関連(角2封筒等): 5,068円、A4コピー紙、文房具類: 7,732円
消耗品費	117,200	117,200	PC周辺機器等: 48,000円、農業用品(作業着、長靴等): 69,200円
旅費交通費	133,760	133,760	団体スタッフ:(1,040+1,380+1,760円)×32日
印刷製本費	38,000	38,000	パンフレットデザイン費: 30,000円、A4カラー・両面印刷費: 4円×1,000枚×2回
通信運搬費	18,000	18,000	事業周知パンフレット郵送費: 250円×36カ所×2回
保険料	116,820	116,820	職業体験者: 1,770円×11日×3人 ※増員1名含む 団体スタッフ: 1,770円×11日×3人
支出合計	B 1,567,580	D 1,547,580	

注) 収入合計 **A** と支出合計 **B**、及び、市の支出 **C** と支出合計 **D** は同額となります。

注) 市の支出の他に、県やその他の助成金がある場合は、収入・支出に明記してください。

※事業の実施及び予算は3月議会での承認により決定されます。

※この事業提案書は、個人情報の一部を除き、ホームページ等で公表します。